

U16 静岡県選抜活動レポート ～第 73 回茨城国体優勝～
【報告者】鈴木啓史（U16 静岡県選抜コーチ、御殿場南高校）

報告対象者：2 種、3 種、4 種各指導者

目的：茨城国体に向けたU16 県選抜の活動を通じた活動内容、
気づき、課題、展望等の共有



(1)チーム発足時のミーティングより

□チームコンセプト

- 静岡代表としての誇りと責任
- 主体的に物事を考え（個人・グループ）変化できるチーム

□チームスタイル

- 積極的な守備から人数をかけゴールを目指し、ボールと人が常に動き、シュート数で相手を圧倒するサッカー
- 11 人が良いポジションをとってお互いの距離を 10～15mに保ち、連続・連動して効率よく攻撃・守備をする
- 攻守の切り替え日本一、特に攻撃から守備への切り替えの速さはチームの生命線

□プレーモデル

- 攻撃…中央を崩す、タッチ数少なく、縦に速く
- 守備…積極的にボールを奪いにいく、コンパクト（前後、左右）、背後を取られない、中央を破られない
- 切り替え…ボールをすぐに奪い返す、奪ったボールを奪われない、ゾーンを変える（ボールを動かす）

(2)国体活動について

□スタッフ、活動日数

代表：石井知幸（ユースダイレクター）、監督：村下和之（沼津西高校）、コーチ：鈴木啓史（御殿場南高校）、
コーチ：松下幸平（ジュビロ磐田）、GK コーチ：赤堀勇太（富士岡中学校）、主務：新山真悟（浜名高校）、
トレーナー：松柴圭（エムクラシコ）、サポートスタッフ：植松弘樹（清流館高校）、近藤達哉（静清高校）、
湯山隼人（静岡高校）

活動は 11 月から 36 日間（36 回）

□戦績

●ヤングサッカーフェスティバル（草薙陸上競技場）

3 月 10 日（日） vs 東京都 1-0 ○

●甲信越静岡U-16 サッカー大会（山梨県押原公園）

3 月 21 日（木） vs 山梨県 3-1 ○

3 月 21 日（木） vs 長野県 4-0 ○

3 月 22 日（金） vs 新潟県 4-0 ○ ※優勝

●東海リーグ前期（岐阜県ほか）

6 月 16 日（日） vs 三重県 3-0 ○

6 月 30 日（日） vs 岐阜県 1-3 ●

7 月 7 日（日） vs 愛知県 0-1 ● ※3位

●ミニ国体（三重県鈴鹿市）

8月10日（土） vs 三重県 5-0 ○

8月11日（日） vs 岐阜県 3-2（延長） ○ ※東海第2代表で本国体出場

●本国体（茨城県鹿嶋市）

9月29日（日） 1回戦 vs 佐賀県 2-2（PK 4-1） ○

9月30日（月） 2回戦 vs 茨城県 3-0 ○

10月1日（火） 3回戦 vs 東京都 3-1 ○

10月2日（水） 準決勝 vs 山口県 6-1 ○

10月3日（木） 決勝 vs 広島県 1-0 ○ ※優勝（8年ぶり）

□チームビルディング

●選手選考

18年福井国体の反省から早生まれの選手を多く（5人）選出した。

ミニ国体、本国体を見据え、連戦でも活躍できる選手を選考した。

（鹿児島県選抜の中学3年生3人がとてもいい選手だったが、連戦で力を発揮することができなかった）

攻守の切り替えが速い選手（特に攻撃から守備）に重きを置いた。

スピードで突破できる選手を選ぶことができなかった。

福井レオナルド明選手（エスパルスユース）、出場時間は短くてもピッチ内外でチームを支えた選手の存在
いくつかのポジションができる選手を選考し、スタメンを固定せず、チームの運動量を分散できた。

●戦術面・ゲーム分析

約束事の徹底（守備は前線からアグレッシブに、セットプレー、得点後のプレー 等）

攻撃のパターン、守備時のポジショニングの徹底

攻撃も守備もコンパクトに、15m程度のパスを刻んでいくようなイメージで

ミーティング時に対戦チームの特徴を攻撃、守備、セットプレーの順番で選手に映像で見せた。

佐賀、山口、広島など3バックやワイドに張りつばなしの選手がいるチームへの対応

●コンディショニング

トレーナー中心にコンディション調整につとめた。

試合終了 → 入浴（温泉施設） → マッサージ → 補食 → 睡眠

1日数回の体重測定

本国体全て第1試合（10:00～、準決勝 11:00～）でルーティンを作りやすかった。

3試合目（ベスト8、東京都戦）で運動量が落ちると考えていたが、最後まで走ることができた。

●リレーションシップ

監督がチーム発足当初からスタッフの役割分担（攻撃、守備、セットプレー、選手起用、ミーティング、トレーニングメニュー等）をはっきりさせ、コーチ、トレーナーが自分の能力を最大限発揮できるような環境づくりを行った。

石井代表からのアドバイスに対し、コーチングスタッフが情報共有、総意の決断をすることができた。

●キーワード

「団結」「まとまり」、「マインド」、「日本一の切り替え」、「日本一のチームワーク」など、いくつかのフレーズを毎回使い、厳しい状況の時もそこに立ち返ることでチームを立て直すことができた。

(3)成果と課題

□ミニ国体

- ・前期リーグの日程と所属選手のチームのリーグ戦が重なって、選手の招集、チームとしての積み重ねに苦慮した。
- ・ミニ国体2試合連戦は心身ともに厳しい。
- ・ミニ国体の岐阜戦は前半カウンターで2失点、岐阜はかなり分析をして試合に臨んできていた。慢心はなかったが、静岡はカウンター対策に重きを置いていなかったのが苦戦した。

□茨城国体

- ・8年ぶりの優勝 50／30／21（50年連続本国体出場／30回決勝進出／21回優勝）
- ・本国体では5試合全てで先制することができ、優位にゲームを進めることができた。
- ・活動していく中でプレミア、プリンスリーグで主力として出場する選手、日本代表に選出される選手が出てきて活動期間中の成長度は例年になく高くなったと感じた。

プレミアリーグ：千葉寛汰（FW、清水エスパルスユース）、藤原健介（MF、ジュビロ磐田U18）

プリンスリーグ：鈴木登偉（DF、藤枝東高校）、勝又大翔（DF、富士市立高校）、熊取谷一星（MF、浜松開誠館高校）

U-16 日本代表：菊地脩太（DF、清水エスパルスユース）、熊取谷一星（MF、浜松開誠館高校）、東廉（MF、清水エスパルスユース）、藤原健介（MF、ジュビロ磐田U18）、千葉寛汰（FW、清水エスパルスユース）

- ・茨城県のスタッフから静岡県と試合できるのは夢でしたと言われた。まだ静岡県＝サッカー王国は指導者の中からなくなっていない。

- ・プレーの決断、守備の運動量、勝負強さ（PK勝ち、FW千葉の得点王）が今年の静岡の強みだった。
- ・1回戦の佐賀戦では前半2得点からの残り5分で2失点。守備の修正が効かなかった。
- ・PK勝ち練習の賜物、1回戦の勝利によって、プレッシャーから解き放たれたかのように選手は自信を深めた。
- ・ミニ国体の岐阜戦、0-2からの1点目、逆転の3点目、本国体決勝の広島戦の決勝点はいずれもセットプレー。セットプレーの準備はしっかりしておくべき。また、相手のセットプレーでの失点がなかった。
- ・システムのミスマッチにどう対応するか、スタッフ、選手に分析力と対応力が必要。
- ・守備について、プレスのスタートゾーンを決めることなく、個人の状況判断において、常に積極的にボールを奪いに行くことをチーム発足当初から言い続けてきた。東京都戦の2点目、東廉の守備から千葉が得点した場面はチームとして積み重ねてきたことであった。
- ・短期決戦を勝ち抜くためにはコンディション、メンタリティ（マインド）、ディシプリン、選手・スタッフの一体感が重要。

最後に長期間にわたる多くの関係者の方々のご支援、ご理解、ご協力があつて、8年ぶりの優勝となりました。本当にありがとうございました。

